

福島原発事故への対応は国際的な関心事となり、政府の発表内容の信ぴょう性に疑問が突きつけられるなど、リスク・コミュニケーションの面で課題が浮かび上がった。

政府の広報責任者として対応にあたってきた内閣副広報官、事故の本質を突く報道で評価を得た東京新聞の担当デスク、福島の最前線で取材報道を続けて来た河北新報福島総局長、この国難を国内外に伝えてきた共同通信社の編集委員室長。

4人が成果と課題を率直に議論する。

シンポジウム

福島原発事故をめぐる コミュニケーション

文系総合館 7階カンファレンスホール
2012年2月3日(金) 15:00-18:00

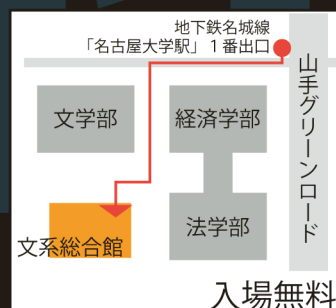
協力：内閣官房 中日新聞社
河北新報社 共同通信社

パネリスト

- 四方敬之氏 (内閣副広報官・国際担当)
- 加古陽治氏 (東京新聞社会部次長・福島原発事故担当)
- 早川俊哉氏 (河北新報福島総局長)
- 会田弘継氏 (共同通信編集委員室長)

モデレーター

- 中村登志哉 (名古屋大学国際言語文化研究科教授)



主催：名古屋大学大学院国際言語文化研究科メディアプロフェッショナル論講座
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/media>
シンポジウムに関するお問い合わせ：052-789-4187
(メディアプロフェッショナルコース事務)